

令和7年2月12日

四国中央市議会議長 山川 和孝 様

四国中央市長 篠原 実



「障がい児支援施策の推進への提言」に対する反映状況の報告

四国中央市議会より提言のあった件について、下記のとおり報告いたします。

記

1 専門的知識を有する人材を含む福祉サービス全体における人材の確保、育成の推進を図ること

令和6年6月に四国中央医療福祉総合学院を訪問、また7月には愛媛大学教育学部を訪問し、福祉人材の確保や育成の課題について説明のうえ、所属する学生の福祉分野への就職に関する課題や、市内の障がい児に関する施設を活用した研修実施について協議し、今後も継続した協力をいただけるよう依頼いたしました。

また、県外の福祉系学部をもつ大学等へ訪問し、保育士をはじめ各種専門職の不足の現状を説明、専門職を目指す学生の本市への就職について依頼を行いました。

今後も引き続き、市内福祉施設等を活用した研修の実施や専門職を目指す学生への勧誘を行い、福祉人材の確保と育成に取り組んでまいります。

2 誰もが平等に安心して暮らせる共生社会をつくるための環境整備を進めること

障害児入所施設につきましては、現在の太陽の家で課題となっている施設の老朽化やプライバシーの確保、土砂災害警戒区域からの移転等に対し、障がい児支援に関わる方々からのご意見を取り入れながら、入所する児童が安心、快適に過ごせる施設となるよう検討を進め、令和6年10月末に設計が完了しました。今後、建設に向けた入札や建設工事等を進めるとともに、職員の体制や運営面での検討を重ね、令和8年4月の開設を目指して取り組んでまいります。

また、障がいのある児童の利用が難しい施設や遊具等につきましては、施設の新設の際にはユニバーサルデザインを取り入れた整備を、また遊具等の更新時にはインクルーシブデザインの導入や障がい児支援に関わる方々の意見を反映できる仕組みを検討し、障がいの有無に関わらず誰もが利用できる施設等の環境整備に努めてまいります。

